

学際プロジェクト研究を通じて社会に貢献する



工学研究院長

白鳥正樹

本学工学部は、生産工学科、物質工学科、建設学科、電子情報工学科および知能理工学科の5つの学科により構成されています。それぞれの学科の教育プログラムに従ってカリキュラムが作成され、そのカリキュラムの一翼を担うべく、それぞれの専門分野の教員が配置されています。

教員は自分の専門分野の守備範囲の中で研究テーマを自由に選択し、その成果はそれぞれの専門分野の研究者の集まりである学会を通じて公表され、評価を受けてきました。

近年の国立大学の法人化を軸とする大きな大学改革の流れの中にあって、大学の社会貢献が強く叫ばれるようになってきました。このような社会のニーズに応えるべく、本学工学部では部局化と言われる改革を実施し、教員の所属する研究部(工学研究院)と教育を担当する教育部(工学府(大学院))および工学部(学部)に分離し、研究と教育両面において社会の要請に柔軟に応えられるような体制を整えました。

このような新たな体制の下、研究面では、これまでに各教員が個人のレベルで行ってきた研究を基盤研究と位置づけ、その重要性に鑑みてこれを従来通り遂行できる環境を整えるとともに、従来の学科の構成にとらわれない複数の教員からなる異分野融合型の学際プロジェクト研究を新たに立ち上げることにしました。

大学には従来から極めて多様な分野の研究者が居りましたが、それぞれが学会活動でそれなりの評価を得ることで満足して、大学内での異分野の研究交流は今まであまり活発に行われておりませんでした。部局化とともに始まった異分野の研究交流に対する慎重な検討を踏まえて、このたび本パンフレットに示される4つの学際研究プロジェクトを工学研究院として正式に認定し、研究推進の後押しをすることに致しました。本プロジェクトの中には既にCOE(Center of Excellence)プログラムとして、文部科学省に正式に認知され、大きな予算を獲得して活発な活動をしているプロジェクトもあり、また、まだ立ち上がったばかりでこれから大きく飛躍しようとしているものなど、内容は様々ですが、いずれも次の時代を切り拓く夢とそれを実現する可能性を秘めたプロジェクトです。このような学際プロジェクト研究の推進とその社会への発信を通じて、産業界および地域社会へのさらなる社会貢献につながるものと考えております。

同じ夢を抱く学外の同志と共に歩むべく、産官学の連携に向けて発信して参りますので御協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成16年9月14日